

こうなっています

「消火栓」のおはなしです。 

まさか、消火栓ってどこにあるの？と思った方はおられませんよね？

そうです、道路や歩道など

全国に 1,954,330 基あります(「令和 4 年版消防白書」より)。



外国映画やテーマパークでは地上式の消火栓を見ることがあると思いますが、日本では圧倒的に地下式消火栓が多いのです。

理由は交通事故などによる損傷が多いのと、地上式より地下式の方が費用を抑えられるから  
だそうです。



柏原市



羽曳野市



藤井寺市

雪に埋まってしまっは場所も分からず使えないからと、地上式消火栓を採用している豪雪地もあります。



地上式消火栓の中には、使用しないときには自動弁で水を抜き、凍結による消火栓の破損を防止できる構造のものがあるようです(不凍式地上消火栓)。

個人的にはデザイン性に優れている地上式消火栓が好きです。



消火栓の鉄蓋は、以前は四角かったのですが、どんどん丸蓋に変わっています。

丸蓋だと中に蓋が落ちないのです。

で、中はどうなっているのか？

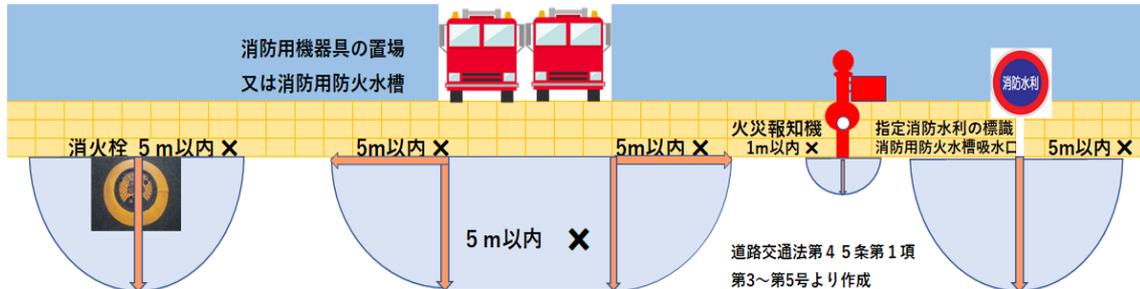
おそらく大半の方はご覧になったことないと思いますが、こうなっています。



なーんだあって思われたでしょうね。  
とてもシンプルです。

195 万基もある消火栓ですが、

火災現場で車が止められていて消火栓が使えないなんてことを防ぐため、近くに駐車しないようにって決まっています。法令文で書くと堅い感じで読みにくいでしょうから、がんばってイラストを作りました。



いろいろ条件はありますが消火栓の他に消防が使う水利として、防火水そう、プール、河川、溝、濠、池、海、湖、井戸、下水道があります。消火栓は公営水道の配水管に取り付けられているので水道水で、防火水そうは、経年劣化はしますが水道水が貯められています。



それ以外は水道水ではありません。

場所によっては、カエルや魚、カメなどがいそうな水利もあり、その水が大量にかけられたあとは、色やにおい、微生物などでなかなか大変な状態になると思います。

しかし、地震などで水道管が破損した場合は消火栓が使えませんので、防火水そうやこれらの水利に頼ることになります。



< 参 考 >

総務省消防庁 <https://www.fdma.go.jp/> 道路交通法(昭和35年法律第100号)第45条

逐条回答 消防力の整備指針・消防水利の基準 改訂版 平成27年 ぎょうせい PIXABAY <https://pixabay.com/>

消防水利の基準(昭和39年12月10日、消防庁告示第7号) HUMAN PICTGRAM2.0 <https://pictogram2.com/>